

入居者 インタビュー

『今の生活ができるのは 全て夫のお陰です』 書道が生きがい

山田 弘子様(86歳)

山田さんは、入居してからも週一回藤沢の自宅で書道教室を続けています。書道に懸ける情熱とそのエネルギーの秘訣を聞いてみました。

自分の人生は このままでいいの

結婚後、専業主婦として家庭を守ってきました。子供もいなかったのですが、四十代の半ばごろ「自分の人生はこのままでいいの？何か一生を通じて出来るものはないか」と考えた時、子供のころ好きだった書道を思い出し、どこまで出来るか分からないけれど挑戦してみようと決めました。五十代半ばには師範の資格をとり、自宅の一室で書道教室を開けるまでとなりました。生徒は皆さん一生懸命で、

十年以上続けている方もいますし、中国に移り住んでからも続けてくれている方もいます。教える責任がありますから、添削指導や自分の課題、展覧会の練習など、毎日時間を決めて集中して行っています。常に向上するよう努力をしているのが、ボケ防止になっているのかもしれない。



お正月にお借りしている掛け軸

大きな家に一人ではいるのは 不安で耐えられなかった

夫が肺閉塞で車椅子の生活になり、ヘルパーさんに来てもら

いながら在宅介護をし、書道教室を続けることができました。

介護生活は5、6年に及んだので夫の死は覚悟していましたが、いざ亡くなってしまうと、大きな家に居るのはとても不安で耐えられなくなりました。姉が湯河原ゆうゆうの里に入居している、里の介護のことはよく知っていたので、すぐに申し込みをしました。自宅は夫が一生懸命働いて建てた家だったので、親戚の子供を養子に迎え、書道教室用の一部屋を残してもらい、家に入ってもらいました。

入居して寂しいと 感じたことはないです

里に入居して、寂しいと感じたことはないです。逆に忙しい位で、毎週火曜日は自宅で書道教室、水曜日はアスレチックジムトレーニング、木曜日には藤沢まで趣味の詩吟教室に通い、他に里の中のコーラスや音楽鑑賞サークルにも参加しています。来年米寿になるまでは、今まで

通りの生活を続けたいですね。



山田さんの大好きな作品

山田さんの好きな作品は、「雲行雨施 惠風和暢」。雲がゆき雨も降った。人生いろいろあつたけれど、今は恵みの風で和やかで明るいという意味だそうです。「私の人生と今の心境にぴったりの言葉で好きなの。今の生活ができるのも全て夫のお陰で、とても感謝しています。」と微笑まれた笑顔はとても穏やかで素敵でした。お話を伺った私も和暢な気持ちになりました。